

人工知能応用研究所 エジンバラ大学

I-Xテクノロジー

<http://www.aiai.ed.ac.uk/project/ix/>

I-Xはいくつかの製品またはドキュメント、プラン、デザイン、物理実体いわゆるmixed- initiative synthesis tasksをサポートする製品の創作や製品を改造する際に人とコンピュータシステムが協力するための研究プログラムです。

I-X研究はNonlin、O-Plan、<I-N-OVA>と呼ばれるプランプレゼンテーションの初期の研究から引き出されたものですが、フレームワークを一般的にすること、用語を明らかにすること、採られたアプローチ方法を簡略にすること、コアとなる考えの再利用性と適応性を広げることがを研究しています。

I-Xプロセスパネル (I-P2)は協同作業環境のもとにプロセスを実行イベント事項に対応しているそれぞれのユーザーをサポートするために使用されます。このパネルは個人やグループに関しての追跡、アクティビティのプランニングと実行、コンストレインのチェックをサポートします。パネルはアクティビティとオーガニゼーションのプロセスサポートのフレームワーク部分を形づくるために、他のパネルに連結が可能で、しかもいろいろなサービス、エージェント、その他、協同作業サポートツールに連結させることができます。

I-Xプロセスパネルは簡単なダイレクトインターネットポート、顧客ネームサーバー、フローカリングシステムからCoalition Grids及び Jabber/XMPPのような包括的で安全なエージェントコミュニケーション経路まで広い範囲のコミュニケーション方法を介して、パネルと他のサービスあるいは既知のエージェントとコミュニケーションすることができます。

I-Xプロセスパネルは多くのプロトタイプで使われておりその応用も展開されてきました。

- *エアキャンペーンプランニング
- *非戦闘員撤退作業
- *連立、多国籍部隊コマンドとコントロール
- *金融ヘルプデスク
- *eサイエンティスト間の共同作業
- *捜査及び救助の調整

現在までにI-Xに関する研究とその応用でアクティビティ志向の ” intelligible messaging ” と呼ばれるインスタントメッセージングパラダイムの ” 増大 ” スタイルを適合することがいかに価値あることが示されてきました。これはAIプランニングテクノロジーを早急に利用できる形にしていく可能性があるという発表の場を与えています。